



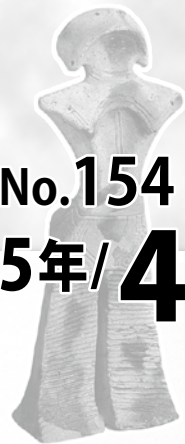
議会

だより

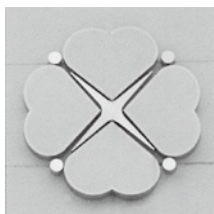
ふながた

No.154

25年/4



発行：山形県舟形町議会
平成25年4月26日



(新校章)



舟形小学校開校 (増築された校舎(下段))

1月・3月臨時会・3月定例会概要	2~4 P
予算審査特別委員会概要・議案審議	5~8 P
一般質問に4議員	9~12 P
町民の声・人事案件・議会報告会	13 P
議会活動・請願・意見書・一般質問のゆくえ	14~17 P
えがったなあ・編集後記	18 P



統合記念碑



3年連続の豪雪

質 答 応 疑

第1回臨時会

平成24年度一般会計補正予算

議員 豪雪により対策本部を設置しているが、被害等は発生しているのか。

総務課長 当町では、いまのところ死者、ケガ人、建物の倒壊等は発生していません。これからも注意を喚起しながら発生防止に努めていきます。

第1回臨時会
1月28日

3月定例会
5日～12日

第2回臨時会
3月29日

通常業務を行いながら

役場耐震化事業に着手

1億5,534万円

3月定例会は、5日から12日までの会期で開催され、4人の一般質問に続き、一般会計・特別会計の補正予算を原案どおり可決しました。25年度予算については、特別委員会を設置し、本会議において付帯決議を付して満場一致で承認しました。

※付帯決議とは議決された議案や予算に対して付される、施行についての意見や希望などを表明する決議のこと。

25年度の主な事業

- 町長車と町有バス購入 1,500万円
- 舟形小学校に太陽光発電導入等 3,362万円
- 遺跡地周辺整備 1,255万円
- 町防犯灯LED化 178万円

3月補正予算

総額5,890万円減額

主な内容

- ・小学校増築工事 2,417万円減額
- ・災害復旧工事 1,100万円減額

定例会

議員 婚活推進事業委託料80万円減額の理由と、今年度の実績はどうなっているか。

まちづくり課長 商工会委託の他に、2団体へ開催要請していましたが、開催が困難になり減額になりました。実績は、数組のカップルが誕生しており見守っているところです。

議員 若あゆ温泉の修繕費の工事内容は、

産業振興課長 湯温が下がるのを防止するための工事で、25年度に繰越して行う予定です。

議員 若あゆ温泉の対応についてお客様からの苦情があるが、

産業振興課長 8月には来館者が300万人になる予定でもあり、接客が一番だと思うので笑顔で迎えられるよう指導していきます。

議員 青年就農給付金が減額になった訳は、

産業振興課長 町では農業振興を命題にして取り組んでいます。当初1名の若い方の就農予定があり、支援するために予算化していましたが、健康上の理由から断念したことにより減額しました。

主な付議事件

第1回臨時会

一般会計・特別会計補正予算

3月定例会

- 25年度一般会計・特別会計当初予算
 - 24年度一般会計・特別会計補正予算
 - 鮎中間育成施設等の指定管理者の指定（小国川漁協が指定管理者に）
 - 町長等の給与の特例に関する条例の設定（町長30%減・教育長10%減）
 - 課設置条例の改正（まちづくり課の税務班が税務福祉課（旧健康福祉課）へ移動）
 - 学校プール設置条例の改正（長沢、富長、堀内小プールは閉鎖）
 - 舟形町議会会議規則の一部改正
- 第2回臨時会**
- 一般会計補正予算（町道除雪事業費補助金2,100万円追加）



移動した税務班

議員 税務班が2年でまちづくり課から税務福祉課へ移動するのはなぜか。

総務課長 国保関係業務と一緒にした方がやりやす、納税者との相談をしやすくするためです。

議員 鮎中間育成施設が建設されることになった理由は、

産業振興課長 鮎で有名な町であり、鮎を中心とした町おこし、若鮎まつりへの安定した鮎の提供をするための施設が必要となったからです。

予算総額56億2,760万円

・付帯決議を付して原案どおり承認

- 一般会計36億1,100万円
- 特別会計20億1,660万円 (6会計)



八楸 太 委員長

予算審査特別委員会

平成25年度予算審査は3月12日より15日まで議長を除く議員全員による予算審査特別委員会を設置し、委員長に八楸太副議長、副委員長に叶内富夫議会議長を選任しました。一般会計及び特別会計を審査し、討論のうえ、賛成5反対3で可決し、付帯決議を付して議長に報告しました。

付帯決議

- ① 公車購入については財政事情や世情に鑑み、高額なものではなく、かつ、環境に配慮した車で、町民にも理解できるものとする。
- ② 行政財産の使用について、目的外使用になっていないか、かつ、適正な使用料を徴収しているのか、減免規定を拡大解釈していないか精査願いたい。また、使用する場合は、使用目的等を明示すること。

町長車購入に反対討論!

反対議員

- 大場 清之議員
- 佐藤 広幸議員
- 佐藤 勇議員

賛成議員

- 叶内 富夫議員
- 野尻 益夫議員
- 加藤 憲彦議員
- 齋藤 好彦議員
- 奥山 謙三議員

討論 高級車といわれる町長車を購入することは、町民の理解を得ることはできない。
まして、町有バス購入と抱き合わせで予算を組み、町長車購入の金額を見えにくくしています。
この様な予算案をしっかり審査するためにも反対します。

討論 公車購入について、上程された予算額は賛成しますが、購入に際しては、環境に配慮した車で、厳しい財政を考慮し、維持費を低く押さえられる車を購入することを条件に賛成とします。

議員 除雪対策費は総額1億6,600万円になるが、これから行う排雪作業分も含まれているのか。
地域整備課長 今回の補正には排雪作業分も含まれています。実際行なった結果、不足も想定されませんが、4月以降の経費については25年度予算より支出することになります。

議員 廃校後の小学校プールは壊すのか。

教育次長 管理、安全面のこともありますが、防災用としての活用も含め検討します。



旧小学校プール

「縄文の女神の日」を制定する条例案否決

西の前遺跡から出土した縄文土偶が名実ともに町の宝であり、国の宝であることを永く認識し、町内外に広く発信することを目的に議員から提案されました。

提案では国宝指定日の9月6日とされていますが、「記念日は発掘された8月4日の方がふさわしいのでは」、「9月の時期は、議会定例会、若駒まつりの開催時期と重なる」、「もっと検討する必要がある」などの意見があり、採決の結果 賛成3の少数で否決されました。

発議第3号

舟形町・縄文の女神の日を制定する条例の設定について

(目的)

第1条 この条例は、舟形町・縄文の女神の日を設定し、国宝指定の榮譽を永く称え併せて先人の暮らしや文化を学ぶとともに町内外に広く啓蒙を図ることを目的とする。

(日の制定)

第2条 舟形町・縄文の女神の日を国宝指定日の9月6日とする。



国宝になった縄文の女神

(記念行事等)
第3条 町は第1条の目的に則り、町民及び関係団体との協働により記念日を中心とした記念行事を開催する。また、目的達成に向けた各種活動を行う。

附則

この条例は、公布の日から施行する。

提案理由

舟形町・縄文の女神の日を設定することにより、舟形町の西の前遺跡から出土した縄文土偶が名実ともに町の宝であり、国の宝であることを永く認識するとともに、町内外に広く発信することを目的に提案するものである。

質 答 応 疑

一般会計

歳入

議員 公営住宅使用料の滞納額が前年度より増加している理由は。

地域整備課長 滞納が多額の方が3名あり、前年度より増額になりました。督促により回収に努めます。



町営住宅

議員 町民税の滞納額は改善されているのか。また、納税組合の奨励金は適正に運用されているのか。

まちづくり課長 滞納者との個別相談などを行い、強制的ではなく自己納税により回収しています。奨励金については、地域活動費用として運用するように指導しています。

議員 青年就農給付金の予算計上は、就農予定者が確定しているのか。

産業振興課長 男性1名、女性1名の方に、就農の意思について確認をしています。

議員 町営バス利用客の増加に向けた対応は行なっているのか。

まちづくり課長 運行時間帯の検討などの対応はしていますが、利用客の増加には至っていません。今後、スクールバスへの混乗について、地域の方々と関係機関と検討していきたいと思えます。

歳出

議員 障がい者総合支援費等で、舟形町でも障がい者の雇用を進めるべきではないか。

総務課長 国からは各事業所に何人かの障がい者を雇用するように指導が来ているので、町でも福祉関係の専門家からの意見等を聞きながら、今後、前向きに検討したいと思えます。

議員 公共施設等耐震化事業1億5,500万円の内容は。

総務課長 役場庁舎の耐震補強工事を行うための費用で、業務を行いながら工事を進め、新たに壁を取り付けたり、プレスという補強を行うものです。



耐震補強工事を行う役場庁舎

議員 公車購入事業1,500万円の内容は。町長車は職員誰でも使用でき、環境に配慮した車を購入すべきではないか。

総務課長 町有バス1台と町長車1台を購入する予定です。町長車は、安全性や仕事の内容から、誰もが使用できるものではなく、町長専用の車を購入したいと思えます。

議員 防犯対策費178万5千円のLED化の内容と電気料金はどの程度安くなるのか。

まちづくり課長 町が設置している170基の防犯灯のうち、今年度70基をLED化するための予算です。電気料金は、1基年間468円×70基分安くなります。

議員 防犯対策費に、舟形と堀内の駐在所を統合する予算が計上されていないのはなぜか。

総務課長 25年度に舟形と堀内の駐在所を統合する計画でしたが、今回は県が予算を確保することができなくなり、今年度の統合が見送られたためです。



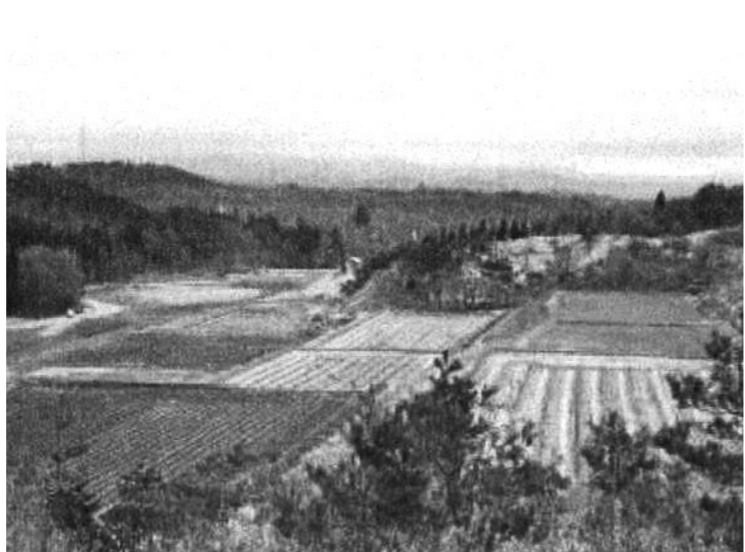
仮置きされた残土（南部保育所跡地）

議員 南部保育所跡地に大量の土砂運搬が行われているが、工事の内容と敷地使用料はどうなっているのか。

地域整備課長 大蔵村の県道改良に伴って発生した残土であり、光生園建設予定地の盛土に使用するための土砂で、敷地使用料は無償です。

議員 残土運搬によって頻繁に大型ダンプの往来があり、地域住民から危険であるとの苦情もある。町民に対して事前に周知すべきではないか。

総務課長 今後、町有地を使用する際は、議会を通じて何らかの形で町民に周知するように対処したいと思えます。



中山間（大平地区）

議員 中山間直接支払交付金5,500万円の内容と使途は確認しているか。

農政班長 急傾斜地域において、耕作放棄地の防止や農業生産の不利な条件を緩和する制度で、30集落406分の個人配分と共同配分に分かれ、機械の共同購入や水路の改修などに使用されています。毎年、2月頃にそれぞれの組合の会長及び会計から領収書等の確認を行なっています。



奥山謙三 議員

「活気あふれる農業推進機構」の農業振興に果たしたこれまでの総括と今後の方策を問う

個々の農業に密着した活動を進める



おかひじき栽培研修

議員 猿羽根山公園の売店及び無料休憩所が解体になった経過は。また、観光地としての跡地利用計画はあるのか。



解体される建物（猿羽根山）

質問 この組織の目的は、営農による年収500万円以上の農家の輩出と潤いのある農村地域の形成、交流人口の拡大による地域活性化となっています。平成20年7月活動開始して4年半以上経過しております。これまでの農業振興の成果を公表しながら、活動総括と今後の方策を町長に伺います。

町長 これまでの活動については、広報ふなだでの「山ちゃん日記」で発信し、町民の皆さんにも幅広く理解されているものと推察しています。「活気あふれる農業推進機構」でのこれまでの主要な活動とその成果をあげますと、作物別の農業実践塾の立ち上げでは、山形県で2番目の生産量

である「おかひじき生産倶楽部」9名、「行者」にんく生産倶楽部」5名、「やまがた地鶏振興協議会」4名、「キクイモ生産部会」3名、その他に「葉にんにく」、「つくね芋」、「赤大豆」、「丹波の黒豆」で計26名の方が参加しています。その他にも「新規就農者の確保対策への対応」、「町内産食

議員 福寿野岡立場線の事業の進捗状況は。

地域整備課長 25年度は測量設計委託料300万円を計上しており、社会資本整備総合交付金事業により行いたいと考えています。交差点部分は県の事業として行なっていたく、引き続き要望していきます。

議員 木友町営住宅団地に入居している世帯で、25年度に宅地購入希望世帯は何戸か。次年度以降、すべて売却する考えなのか。

地域整備課長 アンケート結果では、5戸の世帯が26年度以降に購入希望があり、残り4世帯の方々に購入していただくよう話を進めていきたいと考えています。

議員 農地の集積をはかるために、町ではどのような働きかけをしているのか。行政が前面に出て進めていくべきではないのか。

議員 舟形駅の観光物産センターに観光情報館の機能を移設することになった経過は。



観光物産センター

質問 東日本大震災復興財源として、国家公務員給与を平成24年4月から2年限定で引き上げています。そのため全自治体平均の給与水準は、地方が国を逆転しています。今回の国の予算案では地方交付税を減額する内容となっています。今回の削減要請に対しての町長の考えを伺います。

地方公務員給与削減要請への対応は

材を活用した食育の充実」など多岐にわたる活動を実践しています。今後の方策については、6次産業を具現化すべく農業、商業、工業が連携を図る組織として13団体の代表者で構成される「産業振興本部会議」の一翼として高付加価値農業を遂行するため、生産技術や営農手法など個々の農業に密着し実践するアドバイザーとして活動をしていただきたいと思います。

町長 舟形町におきましても「集中改革プラン」や「行財政改革推進委員会」により、事務事業の見直しや定員管理・給与等の適正化等についての改革を推進してきました。特に舟形町議会地域活性化調査特別委員会決議を受け、定員管理適正化計画により人口10000人当たりの職員数10人以下の目標に向けて、現在も努力を続けています。職員の採用の抑制等も決議書を尊重し対応してきた経過があります。職員の給与の引き下げについては、職員のモチベーションにも影響を与えかねませんので、引き下げ率や実施時期については、県や他市町村の動向を参考にしながら慎重に適切に対応していきたいと考えています。



齋藤好彦 議員

定住促進対策について

住宅政策に全力で取り組む



子育て支援集合住宅

【質問】 平成31年度末の舟形町の人口目標を6,000人としてありますが、本年12月末時点で6,000人を割ってしまったものと予想されます。

町として公営住宅の整備により定住促進を図るのであれば、子育て世代のニーズを把握し、利用しやすい住宅環境の整備を積極的に進める必要があると考えます。

4月からは小学校も統合され、将来的に小学校周辺を舟形町の教育ゾーンにする構想があるのであれば、その周辺を宅地化することにより、家庭教育と学校教育が一体的になった教育環境づくりが可能になるのではないのでしょうか。

また、最近問題化している空き家を町が買取りリフォームなどを行い、公営住宅として賃貸するなどの方法も転入促進に繋がるものと考えます。

併せて、優良な住宅地を計画できる地域としても認識しているところで、職員による研究会を立ち上げて構想を練り、早期に計画を実行していきたいと考えています。

また、空き家をリフォームして公営住宅として賃貸することについては、持ち主との権利調整があり、早急に実現できるか難しいところですが、企画担当課に検討させていきたいと思っております。

子育て支援集合住宅は、25年度中3棟目を建ててみたいと考えています。

ほほえみ保育園や舟形小学校を中心とした地域は、ご指摘のとおり教育文化ゾーンとした計画を持っています。



佐藤広幸 議員

流雪溝の整備状況はどのように進んでいるか

概略設計に入る



本町流雪溝

【質問】 今年も大雪により三年続けての豪雪対策本部の設置となりました。本町地区には2本の流雪溝が整備されていますが、昭和36、37年頃に建設されたから約半世紀が経過し至る所が老朽化しています。さらに、生活様式の変化から建設重機、

トラクター等の機械を使用しているの投雪が増えたせいか頻繁に雪が詰まり、水が溢れ家屋の浸水や交通障害も危惧される状況になってきました。

以前、本町流雪溝はその後整備していく必要があるとの答弁を頂いていますが、その進展状況について、今後の排雪について、今後の排雪についてはルールづくりが必要だと感じるが、町はどう考えているかを質問します。

また、老朽化した流雪溝の整備計画ですが、県とも打合せをしているところであり、その資料となる概略設計の委託料を平成25年度当初予算に計上しています。

溝は、通常は路面排水を処理するために設置するものであり、側溝に水が流れている水路自体は極めてわずかです。水路の水は、農業用水路を利用し流れてきているのが殆どであり、それを利用する場合、水利の権利関係や組合の承諾などが出てくるものと思われます。

【町長】 流雪溝は自然の流水の運搬作用を利用し投入して排雪する施設であり、流量や水路の大きさにより投雪する量の限界があります。流雪溝の流下能力以上に雪を投入した場合、雪が詰まって溢水して人家や道路に浸水することがあります。雪投入のルールを無視して自分勝手に雪を投入してはたいへんな結果になることがあります。流雪溝は自治体が整備しますが、それを円滑に運営していくためのルールは、利用する沿線住民が中心となり「流雪溝運営組織」等

【質問】 各町内会の側溝整備について意見集約を行い、排雪時のルールとセツトで順次側溝整備を進めていくべきと感じるが、町はその考えは無いかを質問します。

【町長】 町道に付随する側溝は、通常は路面排水を処理するために設置するものであり、側溝に水が流れている水路自体は極めてわずかです。水路の水は、農業用水路を利用し流れてきているのが殆どであり、それを利用する場合、水利の権利関係や組合の承諾などが出てくるものと思われます。



佐藤 勇 議員

校舎跡地活用検討の進捗状況は

有効な利活用を検討

【質問】 小学校跡地利用検討委員会を設置しアンケートを取り検討されていますが、今後どのように進めて行く予定ですか。過疎、高齢化が加速する中、えんじゅ荘、ほなみでは多くの入所待機者があります。町でも、安全で安心な高齢者福祉施設

として廃校舎を利用し、地域と関わりを持つていくべきと思います。また、子供達が農業の大切さ、食の大切さを農業体験で学ぶ「教育ファーム」、農業後継者、担い手を育成していく施設としての利用の検討もしていただければと思います。



閉校した長沢小学校



閉校した富長小学校



閉校した堀内小学校

【町長】 12月に町民の皆様から協力をいただき、廃校の利活用について、校舎・体育館・グラウンドのアンケートを実施しました。全町を対象に行い、309名の方から回答を頂きました。地域の事情により利活用について多様な意見が出されていますが、校舎については、「老人・福祉施設やカルチャー教室、災害時の避難所」が最も多く次に「地域の交流の場やスポーツ・サークル活動の場」の順になっています。グラウンドの利用については、「地域のイベントやスポーツ大会、子供の遊び場」などの意見が出されました。今回のアンケート結果を検討委員会の中で報告し、これ

も活用していけるように検討していきたいと思えます。また、ご提案されました内容についても大いに検討させて頂きたいと思えます。当面の間、維持管理費の削減に努めながら適切に建物の管理を行い、災害時広域避難所としての機能についてはこれまでどおり責任を持って対応していきます。

町有地の利用計画は

【町長】 宅地分譲地の販売や、周知活動を実施しながら宅地の有効活用を推進しています。平成18年に購入した、長沢地区の宅地の利活用について、これまで地域の方々と協議を重ねてきた経過があります。今後とも地域の声を大切にしながら有効活用を目指していきたいと思えます。

【質問】 県有地が空き地状態でも多額の損失を出している外部監査で指摘を受けているが、町の遊休町有地はどのようになっているのか、利用の計画はあるのかお聞きします。

声 声

皆さんの声を掲載する欄です。議会に対するご意見・ご要望等、どうぞお気軽にお寄せくださるようお願いいたします。

舟形町教育委員会 委員の任命に同意



齊藤 渉氏
内山 (61歳)



大類奈保子氏
舟形第3 (42歳)

平成17年創設の「舟形町読み聞かせボランティア連絡協議会」の活動も定着し、絵本作家による講演会も毎年盛況である。支えてくれるボランティア、学校、教育委員会、参加してくださる方々の協力の賜と感謝している。町外関係者からは、「絵本作家がくる町、舟形」と羨望を得ている。

私個人は、読み聞かせ活動を始めてから、通信教育で司書資格を取得。現在は、新庄市の中学校図書館に勤務している。絵本が導いてくれた「天職」と感謝に堪えない。他で働いてみて、舟形の読み聞かせが、その量と質の両面で他を圧倒していることに気づく。自慢の点である。しかし、読み聞かせを楽しくおぼただけなく、一生涯を通じ、仕事や生活で活躍する読書が大切で、「読み聞かせによる耳からの読書」から、自立した「一人読み」への移行を導く必要がある。そのためのトータル・コーディネートとして、学校図書館と町立図書館のソフト・ハード両面の更なる整備を期待する。



舟形町読み聞かせボランティア
連絡協議会副会長
渡辺千代恵さん
(西 堀)

議会報告会の日程

開催期日	開催場所
3月18日(月) 午後7時から9時	幅コミュニティセンター 生涯学習センター (長沢第1.2.3)
3月19日(火) 午後7時から9時	舟形中央公民館 (舟形第1.2.3.4) 木友 公民館
3月21日(木) 午後7時から9時	長者原 公民館 西 又 公民館

一 議会報告会

このたび、舟形町議会では昨年に引き続き地域に出向いての第4回議会報告会を開催いたしました。

議会報告会の目的は、議会活動などの報告と町政に関する情報提供を行い、議会活動に対する意見などを直接お聴きして、議会の活性化に努め、住民に信頼されるまちづくりを実現しようとするものです。詳しい内容は議会だより7月号で報告します。

舟形町議会まち活性化特別委員会報告書(要約)

I はじめに

地方議会においては、議会の政策形成、団体意思決定、執行機関監視など、多面に亘る議会機能を十分に発揮すると共に、町民との協働を旨として開かれた議会をめざした積極的な議会活動が求められております。

舟形町議会では、町の更なる活性化を図るため議会改革を含め、町活性化の諸課題を調査し、町に提言していくことを目的に、平成23年6月9日の第2回定例会において、『舟形町議会まち活性化特別委員会』を設置しました。

9回の幹事会と18回に及ぶ委員会を開催しました。これまで調査、検討を重ねた結果を取りまとめ報告します。

委員会の構成

委員長	八 太	委員	加藤 憲彦
副委員長	叶内 富夫	委員	佐藤 広幸
幹事	野尻 益夫	委員	斎藤 好彦
幹事	大場 清之	委員	奥山 謙三
		委員	佐藤 勇

期 間 平成23年6月9日、平成25年3月31日

II 議会活性化の取り組み

1. 議会運営について

(1) 通年議会の導入については、必要性の確認はできたものの導入の時期については議会の継続検討の課題とする。

(2) 議会基本条例の制定について

議会基本条例は、地方議会の規範ともいえる条例である。議会議員の活動原則や住民参加の推進を図り、議会改革の中で組織や運営等の整備を進め、制度の基礎づくりを重ねていく。

(3) 民意を反映した政策決定

住民から受けた請願、陳情等については各常任委員会で、地域の実情や願意を充分精査する体制を整備していく。また、住民参加の意識を高め施策の実現を目指すこととし、議案として提出することも検討する。

(4) 質疑の方法について

これまでは一括質疑方式で実施してきましたが、一問一答方式の導入により質疑内容も明確になるなどの利点があり、質問者も答弁者も質疑を十分に深めることができる。

平成25年第1回定例会より実施する。

(5) 反問権の導入

答弁者が質問内容の確認と、論点を整理するために反問権を認めることとした。



特別委員会

2. 議会、議員の環境について

(1) 議員定数について

議会運営上、現在の定数である10名は必要最少の数であると考えられる。現在の舟形町の情勢下においての実現は困難と理解するが、12名程度が理想であると考えられる。

(2) 議員の報酬について

今、議員として取るべき行動は、自らの研鑽と資質の向上に努め、町民の付託に応え信頼と理解の得られる議員活動の展開を図りながら、町の報酬審議会等の判断を仰ぐべきと考えられる。

3. 開かれた議会をめざして

(1) 夜間議会の開催

開かれた議会を目指すために第1回の夜間議会を平成24年9月7日に開催した。

(2) 議会公聴活動について

議会では定例会ごとに、年4回広報誌『議会だより・ふながた』を発行している。

平成22年からは、議会報告会や中学生議会の開催を実施しその成果も広がりを見せており、今後さらさら研修を重ね、町民の付託に応える議会活動の充実を図る。

(3) 議会中継の実施について

IT化社会において、議会の内容を映像や音声にして町民の皆様へ伝えることの必要性は当然のことながら、多額の費用を必要とすることから、住民の意向調査等を実施した上で、行政との協議を進めていくこととする。

III 舟形町の活性化について

1. 保育所、小学校の廃校舎や跡地の活用について

議会においては、各委員会の研修の際に、近隣地方の先進的事例の視察を通じて対策を模索してきた。現在有効に活用されているのは旧舟形保育所を活用した地域密着型介護施設のみであるが、他の地域への展開も考えるべきである。

町としても、跡地利用の検討委員会を設置し地域の住民と一体となって具体的な協議を進めているが、町の内外を問わず多角的な角度からの情報の提供と収集を行い、官民挙げての取り組みが必要と考える。いずれにしても風化されないよう、継続的に活性化の重点課題として取り組むこと。

2. 遊休財産の活用について

これまで、取得や造成の経緯を見ると無駄な行為とも受けとられる場所がある。平成18年策定の「ふながた改革推進プラン」において未利用の町有財産の活用検討会が組織されたが、実行されたのは旧舟形小学校跡地の住宅建設、宅地造成に留まっている。継続性をもって、取り組みを強化していくこととする。

3. 再生可能エネルギーの導入について

これまで、町内での先進的な取り組み事例もあるが、特に雪エネルギーを利用した貯蔵施設や空調施設としての活用は全国に先駆けて取り組んできた実績と成果を持っている。

実践の導入は多くの自治体に遅れているのが実情である。豊富な自然環境が売り物の舟形町において身近に活用できる自然エネルギーの再確認と、先進的な事業の導入、拡大の推進を図るため、行政と住民そして民間事業者等、関係機関を巻き込んだ組織化を検討することとする。

IV 終りに

この報告書で提言した議会並びにまち活性化の方策についての実施に当たり、議会全体での具体的な協議により詳細を定め、予算化を伴うものや協働体制を必要とするものについては、執行機関と関係機関との協議を進めることを求める。

町活性化については、個々の立場での調査、研究はもとより、関係する機関が情報の共有と連携を保ち、推進の母体となる組織づくりを求める。

今後においては、提言した活性化の方策が、議会活動やまちづくりにいかに結びついたのか検証するため、定期的な見直しや調査が必要である。

縄文の女神が国宝に指定されたことにより、新たな町の活性化が図られることを期待して結びとします。



視察研修 (蔵王町)

議会運営委員会

(1月22日～23日)

災害相互援助協定を結んだ宮城県大郷町にて視察研修を行いました。

大郷町は宮城県のほぼ中央に位置し、仙台市から車で40分程度の都市近郊で、温暖な気候に恵まれた純農村地帯です。

東日本大震災では、町の総世帯数の42%が全壊または一部損壊の被害を受けました。ライフラインの全町復旧には電気が6日、電話が11日、上下水道が16日要したなか、他町村の応援に官民一体となって取り組まれたことでした。

議会運営では、舟形町議会との大きな違いはありませんでしたが、一般質問通告時に「一括質疑、一括答弁方式」または「一問一答方式」のいずれかを選択できることを申し合わせ事項で定めていました。舟形町議会では行っていない活動もありましたので、良い点を学びながら議会活性化に向け、日々努力していきます。



大郷町での研修

総務振興常任委員会所管事務調査

(1月28日)

舟形町豪雪対策本部の取り組みについてと町道除雪の現状と課題について調査を行なった。

1月28日時点で木造平屋の物置小屋が1棟全壊の被害があった他は、建物や農業関連施設、人的被害も無く、3年続いた豪雪対策本部の設置による注意喚起と町の取り組みが概ね成果を上げていると思われる。

現地調査

- ①大平地区に導入された除雪機の稼働状況
 - ②各地区の空き家の状況
 - ③農業ハウス、町道の除雪状況
- 住民からの雪に関する苦情や要望がある一方で、業者からの要望、町としての要望があり、この三者間の協議が大切だと思われる。

今後、冬期間に入るまでに課題を精査し住民と業者、町との間で話し合いを行い除雪していく必要がある。

(2月25日)

舟形町豪雪対策本部の除排雪の現状と、苦情や要望に対する対応の説明を受け、その後、除排雪の遅れが懸念される西又、松橋地域について調査を行なった。

- 1. 西又公民館にて地域住民と行政、業者を交えての聞き取り調査
- 地区住民の意見
- ・積雪量の多い松橋地区から除雪を開始すべきではないか。
- ・新堀、真木野で除雪車がUターンして帰ってしまう。
- ・県道沿いの水田に堆積した雪を排雪して欲しい。

舟形町豪雪対策本部の除排雪の現状と、苦情や要望に対する対応の説明を受け、その後、除排雪の遅れが懸念される西又、松橋地域について調査を行なった。

文教民生常任委員会所管事務調査

(2月8日)

1. 舟形小学校増築工事視察について
小学校増築工事の進捗状況は、各教室とも内装工事の段階にあり工期の2月末までは完了することとありました。

スクールバス車庫、下駄箱、ランチルーム水場増設、厨房工事等も完了しており、新小学校の増築工事は全般的に順調に行われておりました。

2. 小学校統合に伴う受け入れ態勢について

(1) 舟形小学校より説明
昨年11月18日に開催した「合同学習参観」は、各学年の学習参観や全生徒による校歌練習会・校歌斉唱など充実した合同参観日であったとの報告がありました。

(2) 教育委員会より説明
統合準備委員会の各部会での検討状況の説明があり、各部会とも課題整理が終了しており、特に問題となる点はないものと感じました。



学校長からの説明 (舟形小学校)

「一般質問のあゆみ」

☆シリーズ

(平成18年12月定例会)



排雪現場 (堀内地区)

○行政・業者の説明
・松橋からの除雪は実栗屋に除雪車の車庫があるため難しい。
・途中でUターンする件に関しては、町からの連絡により途中で引き返している。

2. 今後の対応

・除雪車は起点から終点まで除雪することになっており、引き返す理由があっても、その後により残した地区を除雪するよう指導していく。
・県道沿いの水田に関しては速やかに県に報告し、対応して頂くよう要望していく。
・その他、多数の意見を受けたが、県の管轄する路線と町が管轄する路線とが混在しているため県には確実に報告、要望していく。
今後、住民・業者・町が話し合いを行い、解決策を見出しながら除排雪を進めていくことが大切である。

請願

3月定例会で審査した請願は次のとおりです。

・環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)交渉参加反対の意見書の提出を求める請願 **採択**

請願者 新庄もがみ農業協同組合

代表理事組合長 安食 賢一

意見書

・環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)交渉参加反対を求める意見書

・国民健康保険制度における国庫負担の増額を求める意見書

右記の意見書を政府関係機関に提出しました。

「一般質問のあゆみ」

☆シリーズ

質問

県立新庄病院は赤字経営となっているが、赤字改善の対策はあるのか。
また、医師等の確保に向けた取り組み状況は、どうなっているか。

答弁

県は県立新庄病院について、設置、運営のあり方について検討が必要との指摘があり、今後方向が示されることとなります。

医師確保対策として、最上地域保健医療協議会主催で医学生を呼んで、見学実習、管内視察などを実施していきます。
今後継続して医師確保に努めます。

現状

最上8市町村では「最上地域保健医療対策協議会」を組織し、その活動として地域医療の充実を目指し努力しているところです。

昨年は、最上地域の皆さんから署名51,898名(舟形町4,004名)を集め、「山形県立新庄病院の早期改築に関する要請」を吉村県知事に提出し、県知事からは改築に向けて前向きな発言をいただいたところです。

今後とも、各市町村と足並みを揃え、早期改築及び機能強化を図ることを県に要望していきます。



シリーズ

舟形町に嫁いで来た、お嫁さん・お婿さんをご紹介します。



えがったなあ



□どんなきっかけで彼(ご主人)と知り合いましたか？
共通の友人を通して知り合いました。

□舟形町に嫁いで来て、どんなイメージを持ちましたか？
雪が多くてびっくりしました。山の無い所で生活していたので、道路に動物ができたこともびっくりしました。

□舟形町での生活はどうですか？
まだ住み始めて一週間なのでよくわかりませんが、これから徐々に慣れていきたいと思っています。

□舟形町の良いところ・悪いところがありますか？
子どもはまだいませんが、子育てしやすい環境だということを知ったので素晴らしいと思います。

□舟形町に望むことはありますか？
舟形町の人口も年々減っていると思うので、若い人達が住みやすいような環境を整えてほしいと思います。

舟形町に嫁いで来たお嫁さんです。

今回は、三川町から富田に嫁いで来た石山亜弓(旧姓飯野)さんです。皆さんよろしくお願いします。

お願い

「えがったなあ」に出てみませんか。
対象者は町外から嫁いで来たお嫁さん・お婿さんです。

(連絡先)
舟形町役場議会事務局
TEL 0233-32-2111(代)

編集後記

今年も、3年連続の豪雪対策本部が設置され、毎日のように除雪作業に追われましたが、春の足音が毎日近づくのを感じています。

日本経済もアベノミクス効果でようやく春が近づいている様に思いますが、実感できるまでには、まだまだ時間がかかりそうです。

春からは、新舟形小学校がスタートしました。保育所から中学校まで一貫した教育体制で子供たちを見守ることができ環境になり、これまで統合にご尽力された全ての方々に感謝申し上げます。

今後、さらに町民の皆様期待にこたえられるような議会広報づくりに努力してまいりますので、沢山のご意見をお聞かせください。

(佐藤 広幸記)

発行責任者

議長 信夫 正雄
議会広報特別委員会
委員長 加藤 憲彦
副委員長 奥山 謙三
委員 佐藤 広幸
齋藤 好彦
佐藤 勇